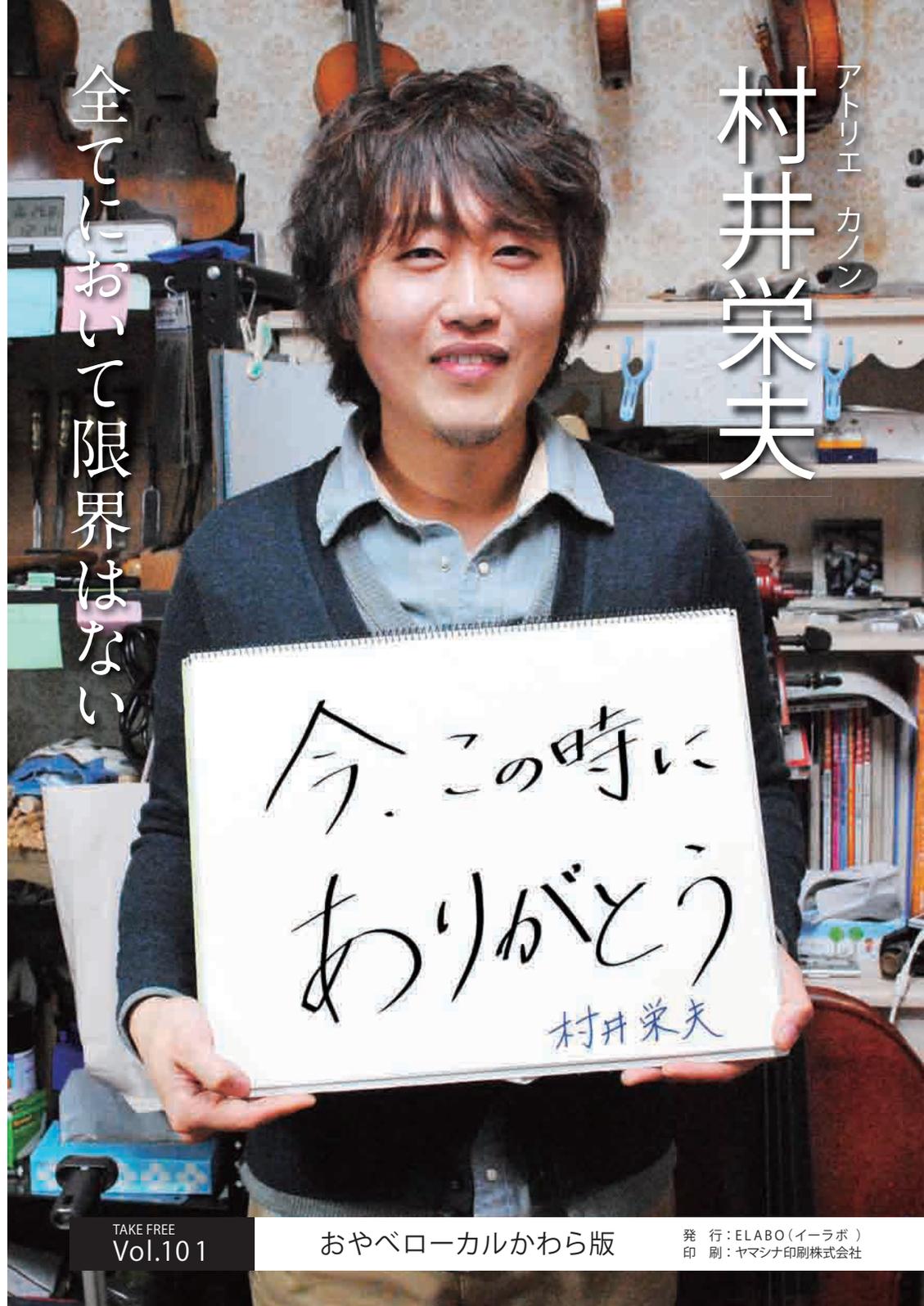


村井栄夫

全てにおいて限界はない



人間は年を取ればとるほど衰退していくが、楽器は全くその逆。美しくなる。音色も見た目も。人間ではありえないこと。

「ただ、古くなると傷みが激しい。メンテナンスが欠かせない。半年、1年の周期で見えてあげたほうが喜んでくれます。」

そう語るのは、弦楽器の修理・販売を行うアトリエカノンの村井栄夫さん。以前ご紹介した村井仏壇工房さんとは兄弟だ。

「楽器の音が分かります。苦しんで、メンテナンスお願いしますと...。」

バイオリンの中にある柱、魂柱(こんちゆう)は、音を左右する重要な部分。この柱の位置によって音色が随分変わる。「どう動かしたら、どのように音が変わるのか分かるまで、かなり時間がかかりました。」

「僕は100%はないと思っていて。日々探究しています。」
もともと音楽が大好きで、中学の頃、歌手になりたい夢をもっていた。でも、相談が出来る先生や環境もなかった。

一度は諦めたものの、将来音楽の道に進めたらいいなと思っていた。そして、心に響かせられたのがバイオリンだ。



お客さんは主に演奏家の方。修理のパーツは、一つ一つ丁寧に木を削って作る。細かい作業だが、手を抜いてしまうと音への影響が大きい。

弦楽器は、専門店くらいしか置いてなく、本当に気に入った楽器を買うのは難しい。

「大好きな楽器が弾きにくい、違和感があるというのは、お客さんとの話の中で分かります。僕は木の医者でもあります。木の声も聞こえます。」

「じゃあ私が喜んで直しましよ、という気持ちになります。」
子どもの頃、父が自分が身に付けた技術のこと、仕事で味わう喜びのことをずっと話してくれた。

「それを聞いて、なんでも出出来ないやいけなさんだなど、自然にそう考えるようになった。」
「いずれは料理も学びたい。将来、音楽のあるお店も出してみたいと思っています。何でも挑戦しようと思っています。」
始めてようやく10年。たくさんさんの楽器を直してきたが、同じのはない。一つ一つ個性がある。

「今の仕事を通じて学んだことは、全てにおいて限界はないということ。数式では現せないことが起きるんだな。」

修理の作業は、一人で最初から最後まで自分と楽器との会話で行う。

「一人で大変だけど苦ではない。語りかけたら応えてくれるから。」

何でも新しくすればいいのではなく、楽器のオリジナリティを守ることを考える。オリジナリティがなくなると、楽器の価値がなくなる。

「コントラバスなど大きな楽器の修理依頼がくると今の作業台では狭いので、父の仏壇工房を貸してもらい、作業させてもらいます。ありがたいです。」

小矢部だと誰もやってない仕事。まずは知ってもらうことも大切だ。

「音楽とは音を楽しむこと。音楽にバイオリンの音を楽しみ、奏でてもらいたい。バイオリンを子供から大人までみんなが楽しめるようなスペースを作りたい。」
現代は、バッハやモーツァルトがいた時代とは、音楽に対する価値が違う。
いつの時代からか音楽の価値を重んじなくなった。
「ジャンルを超え、多方面で活躍出来る人が多数いたらいいですね。」
「バイオリンなどの弦楽器をピアノのように身近に感じる世の中になりたいです。」

■村井栄夫

昭和55年4月16日生

子どもの頃から手先が器用で、仏壇の修理をする父の真似をするのが好きだった。現在東京でアニメーターとして活躍する兄の絵を真似て遊ぶことも。音楽は聴くのも歌うのも好き。今も変わらない。

■カノン弦楽器工房

住所：富山県小矢部市鷺島227-9
電話：0766-681-0789